

3 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

計画で掲げた取り組むべき主な施策、推進方策に基づいて実施した事業及び取組について、各主管課及び教育委員会による内部評価を行い、今後の課題と対応方針を示しました。

(1) 学校教育

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策1	確かな学力の育成		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●基礎・基本の確実な定着	
・「伊達市学力テスト」を実施することにより、児童生徒の学力や学習状況を把握するとともに、「学力・学習改善プラン」を作成し、一人一人の基礎や基本の確実な定着を目指す。	
主な取組内容	R1 伊達市学力テストの調査結果等に基づいた学力・学習改善プランの作成と数値目標達成に向けた指導方法等の工夫・改善
	R2 伊達市学力テストの調査結果等に基づいた学力・学習改善プランの作成と数値目標達成に向けた指導方法等の工夫・改善
	R3
	R4
	R5
●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	
・これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子どもたちの「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の育成を図り、一人ひとりの生きる力を育む。	
主な取組内容	R1 伊達市教育実践交流・研修会の実施
	R2 伊達市教育実践交流・研修会の実施
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合									
小学校及び義務 教前期課程	78.0%	86.3%	83.6%			83.0%	86.0%	b	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教後期課程	80.3%	85.4%	79.8%			83.0%	86.0%	c	全国学力・学習 状況調査
◎「算数(数学)の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合									
小学校及び義務 教前期課程	81.9%	77.8%	77.7%			83.0%	86.0%	c	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教後期課程	76.4%	83.1%	73.6%			77.0%	80.0%	c	全国学力・学習 状況調査

■取組評価指標 a: 順調 b: 概ね順調 c: やや遅れている d: 遅れている - : 評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	小学校の国語以外、目標設定年度を下回り、前年度も下回っていることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
全体的にやや遅れている状態であり、「学力・学習改善プラン」の作成、及び継続した指導方法の工夫改善が必要。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	1	3	学力向上実践事業	2,402	

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策2	特別支援教育の充実		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●関係機関と連携した地域ネットワークづくりの充実	
・伊達市特別支援教育推進協議会を実施し、学校や保育所、幼稚園等の関係機関が、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な就学の場の提供するために連携の充実を図る。	
主な取組内容	R1 伊達市特別支援教育推進委員会の実施
	R2 伊達市特別支援教育推進委員会の実施
	R3
	R4
	R5
●一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な就学支援	
・伊達市特別支援教育推進協議会の各支援部会において新就学児および在校児童生徒一人ひとりに応じた就学の場を検討するとともに、特別支援教育支援員・介護員の配置により、児童生徒の学習支援や生活支援を行う。	
主な取組内容	R1 伊達市特別支援教育推進委員会支援部会の実施及び特別支援教育支援員・介護員の配置
	R2 伊達市特別支援教育推進委員会支援部会の実施及び特別支援教育支援員・介護員の配置
	R3
	R4
	R5
●教育相談の充実	
・特別支援コーディネータ連絡会議における研修等により、校内特別支援コーディネータの知識等の向上を図り、教育相談の質の向上を図る。	
主な取組内容	R1 特別支援コーディネータ連絡会議において、教育相談に係る研修を実施
	R2 特別支援コーディネータ連絡会議において、教育相談に係る研修を実施
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎通級指導教室及び特別支援学級において個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用している学校の割合									
小学校及び義務 教前期課程	30.0%	100.0%	100.0%			65.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
中学校及び義務 教後期課程	100.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	すべての学校において、引き続き通級指導教室及び特別支援学級に在籍する児童生徒の個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用していることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
障がいのある児童生徒の適正な就学措置や「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、校種間における個別の教育支援計画等の円滑かつ効果的な引継ぎを行うなど、教育的ニーズに対応した教育的支援を継続して行っていく。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予 算 書 上 の	款 項 目		事業(細目)名	決算額(千円)	摘要	
		2	2	2	特別支援教育推進事業(職員給与費)		44,274
		9	1	4	特別支援教育推進委員会運営経費		1,026

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策3	国際理解教育の推進		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●外国語指導力の充実	
・小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の指導に向けて、小中学校の教職員が連携を深めるなど、指導力の向上に努める。	
主な取組内容	R1 小学校外国語活動巡回指導教員研修事業の活用
	R2 ALTとの連携及び効果的な活用による、指導方法の工夫・改善
	R3
	R4
	R5
●異文化理解の充実	
・ALT等ネイティブスピーカーとの交流活動や共同生活、英語を用いた体験活動を行う「イングリッシュキャンプ」を通じて、子どもたちが語学教育だけでなく、外国の文化や習慣に触れられるなど国際理解教育の充実に取り組む。	
主な取組内容	R1 イングリッシュキャンプの実施
	R2 イングリッシュキャンプの実施
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎伊達市学力テストにおける外国語の伊達市全体の平均点が全国平均を上回る									
中学校及び義務教後期課程	-	やや下回る	全国平均程度			全国平均程度	全国平均以上	a	伊達市学力テスト
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	標準スコアの全国50と比べ、1年生-0.6、2年生+0.9となっており、全国平均程度となったことから、この評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
小学校中学年の外国語活動や高学年の外国語科を導入し2年目でもあり、定着を図る。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等の 予算書上の	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	1	6	ネイティブスピーカー活用事業	22,962	
	9	1	6	大滝徳舜管学校イングリッシュキャンプ運営経費	867	

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進	
施策4	情報教育の充実		担当課係	教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●「情報モラル」の育成に向けた取組の充実				
・児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動に取り組むとともに、情報機器を利用する際の情報モラルを身に付けさせる学習の充実を図る。				
主な 取組 内容	R1	各教科等による情報モラルの育成に向けた学習活動の実施		
	R2	各教科等による情報モラルの育成に向けた学習活動の実施		
	R3			
	R4			
	R5			
●「プログラミング的思考」などを育むプログラミング教育の充実				
・児童生徒一人ひとりに情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度が育まれるよう、GiGAスクール構想に基づく整備を行うとともに、発達段階に応じたプログラミング教育の充実を図る。				
主な 取組 内容	R1	プログラミング教育研修の実施		
	R2	プログラミング教育研修の実施		
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導の実施」について「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合									
小学校及び義務教前期課程	77.7%	100.0%	67.0%			80.0%	100.0%	c	学校への聞き取り調査
中学校及び義務教後期課程	66.7%	100.0%	100.0%			75.0%	100.0%	a	学校への聞き取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	課題解決型の学習は、すべての学校において実施しているが、コロナ禍による接触等を避ける観点から、特に小学校において、児童同士が対面で教えあう授業を減らした結果、肯定的回答が減少したことからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
情報活用能力の育成や情報モラルの指導、情報機器活用のマナーなどネットトラブルの未然防止に向け引き続き指導を継続する。また、GIGAスクール構想に基づき発達段階に応じたプログラミング教育の実施をする。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策5	キャリア教育の充実		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●学級や学校での生活づくりに主体的にかかわり、自己を生かそうとする活動の充実(小学校及び義務教育学校前期課程)	
・学級や学校生活における様々な課題を解決するために、実現可能で具体的な目標を立てたり意思決定したりし、自己の良さを生かした主体的な活動を充実させ、現在や将来に希望や目標を持ち、日々の生活に生かしていこうとする態度を養う。	
主な取組内容	R1 全体計画に沿った、発達段階に応じて自己の進路や生き方を選択する能力の育成を図る取組
	R2 キャリア教育全体計画に沿った、発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取組
	R3
	R4
	R5
●学ぶことと働くことの意義を理解して学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるよう、職場見学や職業体験の充実(中学校及び義務教育学校後期課程)	
・生き方や希望する進路、職業の情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考え、主体的に選択・決定したり体験したりする活動を充実させ、自己実現に向けて目標を立てて計画的に取り組む態度や肯定的な自己理解を育む。	
主な取組内容	R1 職場見学や職業体験の実施
	R2 職場見学や職業体験の実施
	R3
	R4
	R5
●学びの過程を記述し振り返ることができる仕組みの構築	
・児童生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら主体的に学習活動に取り組めるよう、自らの学びを見通したり、自己の変容や成長を振り返ったりする活動の充実を図る。	
主な取組内容	R1 学習活動の節目や単元や学習の終末における、自己の変容を振り返る取組
	R2 学習活動の節目や単元や学習の終末における、自己の変容を振り返る取組
	R3
	R4
	R5
●市内の事業所や関係機関と連携した取組の充実	
・伊達地区ネットワーク会議に参加し、キャリア教育の情報収集や意見交換を行うとともに、身近な職業や事業所の魅力とはたらき、自分との関連について、職場・職業体験、見学などをとおして探求し、児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう、連携を充実させる。	
主な取組内容	R1 伊達地区ネットワーク会議に参加
	R2 伊達地区ネットワーク会議に参加
	R3
	R4
	R5
●発達段階に応じた学習の充実	
・各校における教育課程、キャリア教育全体計画に基づき、特別活動を中核としながら、学校の教育活動全体をとおして、体系的に児童生徒のキャリア発達を促す。	
主な取組内容	R1 全体計画に基づいた、発達段階に応じた自己の進路や生き方を選択する能力の育成
	R2 全体計画に基づいた、発達段階に応じた自己の進路や生き方を選択する能力の育成
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「将来の夢や目標を持っている」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	89.2%	79.8%	78.2%			90.0%	92.0%	c	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	65.0%	75.1%	64.1%			70.0%	75.0%	c	全国学力・学習 状況調査
◎									

■取組評価指標 a: 順調 b: 概ね順調 c: やや遅れている d: 遅れている - : 評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	コロナの影響で長期休業となり、年度当初から1学期における自己の在り方や生き方、将来について考えるキャリア・パスポートの取組等が十分でなかったと考えられ、目標設定数値等を下回ったことから、この評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
今後も、キャリア教育全体計画に沿った、発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取組を継続する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策6	環境教育の充実		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● 学校の特徴を生かし、環境教育を視野に入れた教育課程の編成・実施	
・各教科・領域等を通し、子どもたち一人ひとりが、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できるよう、指導の充実を図る。	
主な 取組 内容	R1 環境教育全体計画に基づいた、学校の教育活動全体での環境教育の実施
	R2 環境教育全体計画に基づいた、学校の教育活動全体での環境教育の実施
	R3
	R4
	R5
● 生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度の育成	
・自然体験や社会体験活動を通じて、環境に配慮した望ましい行動がとれる子どもを育てよう環境教育の充実を図る。	
主な 取組 内容	R1 泊を伴う学習や、自然体験学習、職業体験等における、環境教育の実施
	R2 泊を伴う学習や、自然体験学習、職業体験等における、環境教育の実施
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎総合的な学習の時間における環境教育の実施校の割合									
小学校及び義務 教前期課程	90.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
中学校及び義務 教後期課程	0.0%	100.0%	100.0%			50.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	昨年に続き、すべての学校において、環境教育全体計画に基づいて環境教育を実施していることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
各教科、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して環境教育に関する学習を継続して実施。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	概要

第1章	学校教育	第1節	社会を生き抜く力を育む教育の推進
施策7	安全・防災教育の充実		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● 関係機関や地域と連携し、自然災害を想定した実践的な防災訓練の実施	
・有珠山の噴火や津波等を含めた自然災害等に備え、警察、消防署の協力を得て実践的な防災訓練を行うなど学校安全対策の充実を図る。	
主な取組内容	R1 実践的な防災訓練や防災に関する教育活動の実施
	R2 実践的な防災訓練や防災に関する教育活動の実施
	R3
	R4
	R5
●	
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ すべての学校で防犯教室及び避難(防災)訓練を両方実施しているため、計画期間中においても、内容の充実を図りながら継続して実施する。									
小学校及び義務教前期課程	100.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	a	学校への聞き取り調査
中学校及び義務教後期課程	100.0%	100.0%	75.0%			100.0%	100.0%	c	学校への聞き取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	中学校においては、目標値を下回っているものの、小学校においては、目標値を上回っていることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
コロナ禍の影響もあり、授業日数の減・感染リスクを下げる観点から、実施を見合わせた中学校もあったが、引き続き、小学校中学校ともに避難訓練・防犯訓練を継続して実施する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	概要

第1章	学校教育	第2節	豊かな心を育む教育の推進	
施策1	道徳教育の充実		担当課係	教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● 道徳科の指導方法の工夫改善や、指導に生きる評価の在り方に係る研修の充実				
・「考え、議論する道徳」の授業改善や評価に係る研修の充実を図るとともに、自己を深く見つめ、人間としてのあり方や生き方の自覚を深める中でよりよく生きるための道徳性が養われるよう、道徳教育全体の工夫・改善を図る。				
主な 取組 内容	R1	「考え、議論する道徳」の実現に向けた校内研修の実施		
	R2	「考え、議論する道徳」の実現に向けた校内研修の実施		
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	77.2%	82.1%	77.0%			80.0%	85.0%	c	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	73.1%	73.0%	72.7%			75.0%	80.0%	c	全国学力・学習 状況調査
◎「学校のきまり(規則)を守っている」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	91.9%	88.9%	92.0%			92.5%	95.0%	b	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	93.8%	95.2%	91.3%			94.0%	95.0%	c	全国学力・学習 状況調査

■取組評価指標 a: 順調 b: 概ね順調 c: やや遅れている d: 遅れている -: 評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	目標に対し、いずれも達成しておらず、目標設定年度よりほぼ下回っていることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
すべての学校において、自己を深く見つめ、よりよく生きるための道徳性が養われるよう道徳教育の校内研修を引き続き実施する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第2節	豊かな心を育む教育の推進	
施策2	生徒指導・教育相談の充実		担当課係	教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● 児童生徒や保護者への相談体制の充実		
・生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できないことも多くなってきており、こうした様々な児童生徒の相談に対して、教員のほか、引き続き道費によるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続するなど、児童生徒の置かれている状況や抱えている問題・悩みに応じて対応する。		
主な取組内容	R1	スクールソーシャルワーカーの学校訪問
	R2	スクールソーシャルワーカーの学校訪問
	R3	
	R4	
	R5	
●		
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 伊達市内の不登校率が全国平均を下回る									
小学校及び義務 教前期課程	0.3%	0.7%	0.6%			全国平均 を下回る	全国平均 を下回る	a	
中学校及び義務 教後期課程	2.2%	2.9%	2.6%			全国平均 を下回る	全国平均 を下回る	a	
◎「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合									
小学校及び義務 教前期課程	98.5%	97.7%	96.5%			99.0%	100.0%	c	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教後期課程	91.6%	90.7%	92.0%			95.0%	100.0%	b	全国学力・学習 状況調査

■取組評価指標 a: 順調 b: 概ね順調 c: やや遅れている d: 遅れている - : 評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	いじめに対する回答において小学校では、目標設定年度を下回っているものの、不登校率は、全国平均に比べ下回り、前年度よりも改善したことからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
教育相談や生徒指導全体計画の見直しを含めた校内体制の充実、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた校内研修等を、今後も全ての学校で継続する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	1	2	不登校等対策事業経費	886	

第1章	学校教育	第3節	健やかな体を育む教育の推進
施策1	体力・運動能力の向上		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●「体力向上プラン」に基づいた取組の工夫・改善	
・小学校1年生から中学校3年生を対象とした「伊達市体力テスト」を実施し、各学校において、児童生徒の体力・運動能力の検証を図ることにより、個々の体力・運動能力の向上を目的とした「体力向上プラン」を作成し、学習指導の工夫・改善を図る。	
主な取組内容	R1 伊達市体力テストの結果等に基づいた「体力向上プラン」の作成と、学習指導の工夫・改善
	R2 伊達市体力テストの結果等に基づいた「体力向上プラン」の作成と、学習指導の工夫・改善
	R3
	R4
	R5
●	
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「全国学力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程(男子)	全国平均比: +0.4%	1.1%	—			全国平均を 上回る	全国平均を 上回る	—	新型コロナ感染 症の影響により 未実施
小学校及び義務 教育学校の前期 課程(女子)	全国平均比: +1.1%	-0.3%	—			全国平均を 上回る	全国平均を 上回る	—	新型コロナ感染 症の影響により 未実施
◎「全国学力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る									
中学校及び義務 教育学校の前期 課程(男子)	全国平均比: +1.3%	-2.4%	—			全国平均を 上回る	全国平均を 上回る	—	新型コロナ感染 症の影響により 未実施
中学校及び義務 教育学校の前期 課程(女子)	全国平均比:- 3.1%	-4.1%	—			全国平均を 上回る	全国平均を 上回る	—	新型コロナ感染 症の影響により 未実施

■取組評価指標 a: 順調 b: 概ね順調 c: やや遅れている d: 遅れている —: 評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
—	新型コロナウイルス感染症の全国的な感染状況や学校現場の負担軽減等を踏まえ、同調査が中止となったことから、評価できなかった。
取組を進める上での課題と対応方針	
全ての学校において児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力の向上に向けた指導を行うことを継続する。	

■達成度評価指標 A: 達成、完了 B: 達成に向け進捗あり C: 着手したが遅延している D: 未着手
—: 評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	概要

第1章	学校教育	第3節	健やかな体を育む教育の推進
施策2	食育・健康教育の推進		担当課係 食育センター庶務係

1 推進方策および今年度の取組内容

●だて歴史の杜食育センターの活用	
・より安心安全な給食の提供に努め、給食の充実を図るため献立の見直しに取り組む。また、食育センターの活用策の一つとして高校へ給食提供に向けた検討を行う。	
主な取組内容	R1 道立高校学校給食モデル事業(試食、アンケートの実施)
	R2 献立の見直し検討、道立高校学校給食モデル事業(期間限定で給食の試行販売を実施)
	R3
	R4
	R5
●地場産物を活用した学校給食の充実	
・地場産物を活用した学校給食の提供を務めるとともに、日本文化や季節の行事など食育の観点を意識した献立づくりに取り組む。	
主な取組内容	R1 地場産物の積極的な活用
	R2 新たな地場産食材の検討、日本文化や季節の行事など食育の観点を意識した献立の検討
	R3
	R4
	R5
●栄養教諭派遣事業の継続的な実施	
・栄養教諭派遣指導で食べることの大切さを伝えるため、今年度各小学校全学年1回以上実施することとし、計30回派遣する。	
主な取組内容	R1 栄養教諭派遣事業39回実施
	R2 栄養教諭派遣事業の継続
	R3
	R4
	R5
●児童生徒や家庭に対する、食育の大切さに関する啓発活動	
・毎月学校に配布しているランチメール、献立メモの充実を図り、家庭への食育の大切さに関する啓発活動を行う。	
主な取組内容	R1 長期休業中に体験型イベントの開催(夏季:調理場一般公開、冬季:調理体験)
	R2 家庭への食育に関する情報発信方法の検討
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎学校給食における地元産食材利用率が前年度を上回る									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	—	33.5%	32.8%			37.5%	40.0%	b	
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	—	33.5%	32.8%			37.5%	40.0%	b	
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	新型コロナウイルス感染拡大に伴い5月に給食を一時休止したため地元産食材利用率は、昨年を下回る結果となったが新たな地場産食材として大滝区産アロニアや鶏肉の利用を検討し、実施に向けた試作を重ねるなど次年度に向け調整を図った。また、栄養教諭派遣事業については各学校の給食の時間に食育指導(授業)や給食指導を実施した。
取組を進める上での課題と対応方針	
地場産物を活用した学校給食を提供するためには、イベントや行事に対応した献立の工夫やご当地給食の考案など使用頻度を多くすることで利用率を上げる必要がある。道立高等学校給食モデル事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できていないが、今後はほかの利用方法も含めた検討が必要となる。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	5	3	だて歴史の杜食育センター運営管理費	371,813	
	9	5	3	道立高等学校給食モデル事業	566	

第1章	学校教育	第3節	健やかな体を育む教育の推進	
施策2	食育・健康教育の推進		担当課係	教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●がん教育や薬物乱用防止教室・性に関する指導の実施				
・各学校における教育計画に基づき、保健体育・学級活動の学習や、外部講師を招き講座を実施するなど、取組を充実させる。				
主な 取組 内容	R1	がん教室など各種研修講座の実施		
	R2	がん教室など各種研修講座の実施		
	R3			
	R4			
	R5			
●				
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			
主な 取組 内容	R1			
	R2			
	R3			
	R4			
	R5			

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎がん教育の実施率が、前年度の実施率を上回る									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	50.0%	100.0%	66.7%			80.0%	100.0%	c	学校への聞き 取り調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	75.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	小学校においては、目標値を下回っているものの、中学校においては、目標値を達成していることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
全ての学校において、がん教育を実施する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第4節	地域とともにある学校づくりの推進
施策1	地域総がかりの教育の推進		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営へ地域が参画する取組の推進	
・地域の住民や関係者が各校の運営協議会に参加し、学校運営に参画していただくことにより、地域とともにある学校づくりを進める。	
主な取組内容	R1 学校運営協議会を軸とした学校経営の充実に向けた取組
	R2 学校運営協議会を軸とした学校経営の充実と、地域住民や保護者が主体的に学校運営に参画する取組
	R3
	R4
	R5
● 各校のコミュニティ・スクールの活動内容を参考に研修を深める取組の充実	
・教職員や地域の住民、関係者がその制度や内容などについて理解を深めるとともに、他校の学校運営協議会の活動について研修する機会を設けるなど、各校における学校運営協議会の取り組みを充実する。	
主な取組内容	R1 伊達市学校運営協議会委員研修会の開催
	R2 伊達市学校運営協議会委員研修会の開催
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる」と回答した割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	77.7%	100.0%	100.0%			85.0%	100.0%	a	全国学力・学習 状況調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	66.6%	100.0%	100.0%			75.0%	100.0%	a	全国学力・学習 状況調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	全ての学校において、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加していただいていることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
今後も継続して、全ての学校において、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動を実施する。	

■達成度評価指標 A:達成、完了 B:達成に向け進捗あり C:着手したが遅延している D:未着手
-:評価不可

細目名等	予 算 書 上 の	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
					9	1	

第1章	学校教育	第4節	地域とともにある学校づくりの推進
施策2	ふるさと創生教育の推進		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

● 発達段階に応じた「だて学」学習プログラムの構築	
・ふるさと創生教育「だて学」推進事業により発達段階に応じて学習内容を体系化した学習プログラムを構築し、地球規模の視野で考え、地域の視点で行動できる子供を育成するため、小学校から中学校、高等学校まで系統立てた学習を行う。	
主な取組内容	R1 ふるさと創生教育「だて学」の実施、および、指導計画等の作成
	R2 ふるさと創生教育「だて学」の実施、および、学習内容の工夫・改善
	R3
	R4
	R5
● 地域の教育資源を生かした体験的な学習活動の充実	
・学校において、地域の専門的な知識・技能を有する人材や地域の施設、副読本等を活用することにより、伊達市の歴史的風土、伝統、文化等について学ぶ取組を充実させる。	
主な取組内容	R1 地域の芸術や伝統芸能等の文化に触れる取組、および、地域人材・施設等の活用
	R2 地域の芸術や伝統芸能、歴史文化に触れる取組、および、地域人材・施設等の活用
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎「地域や社会で起きている問題に関心があるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	60.6%	-	77.7%			65.0%	70.0%	a	全国学力・学習状 況調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	53.5%	-	69.9%			60.0%	70.0%	a	全国学力・学習状 況調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	中学校においてもほぼ目標を達成していることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
今後も継続して、全ての学校でふるさと創生教育「だて学」の学習プログラムを実施するとともに、学習方法・学習内容の充実を図る。	

■達成度評価指標 A:達成、完了 B:達成に向け進捗あり C:着手したが遅延している D:未着手
-:評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
				9	1	

第1章	学校教育	第4節	地域とともにある学校づくりの推進
施策3	異校種間連携・接続の推進		担当課係 教育部指導室

1 推進方策および今年度の取組内容

●幼稚園、認定こども園、保育所と小学校との連携	
・小学校体験入学や幼稚園・保育所交流など、就学前の幼児を中心とした未就学児と、児童との交流活動を推進し教育活動の円滑な接続を図る。	
主な取組内容	R1 幼保・小間での交流活動、体験入学等、計画的な連携・接続の実施
	R2 幼保・小間での交流活動、体験入学等、計画的な連携・接続の実施
	R3
	R4
	R5
●小学校と中学校との連携	
・中学校区を基本とした児童・生徒交流、異校種間の教育課程の接続や児童・生徒に関する引継ぎ、指導方法に関わる研修会の推進により、小・中学校の教育活動の円滑な接続を図る。	
主な取組内容	R1 各中学校区を基本とした、児童生徒交流、生徒指導、教育課程、特別支援教育等に係る連携・接続の実施
	R2 各中学校区を基本とした、児童生徒交流、生徒指導、教育課程、特別支援教育等に係る連携・接続の実施
	R3
	R4
	R5
●小・中学校と高等学校、高等教育機関(専門学校・大学等)との連携	
・市内高等学校と小・中学校での教育活動上の連携、教職員の指導方法に関わる、交流、情報交換を推進することにより、小・中学校と高等学校等の円滑な接続を図る。	
主な取組内容	R1 市内高等学校との異校種間連携の実施、および、伊達地区ネットワーク会議における情報交流
	R2 市内高等学校との異校種間連携の実施、および、伊達地区ネットワーク会議における情報交流
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎教育活動等に関する調査において、「近隣等の学校と教員同士の交流を行っている」と回答した学校の割合									
小学校及び義務 教育学校の前期 課程	60.0%	100.0%	100.0%			80.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
中学校及び義務 教育学校の後期 課程	40.0%	100.0%	100.0%			75.0%	100.0%	a	学校への聞き 取り調査
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	全ての学校において、指導方法に関わる情報交換や教育活動上での連携など、近隣等の学校と教員同士の交流を行っていることからこの評価とした。
取組を進める上での課題と対応方針	
今後も継続して、指導方法に関わる情報交換や教育活動上での連携など、近隣等の学校と教員同士の交流を実施する。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	概要

第1章	学校教育	第4節	地域とともにある学校づくりの推進
施策4	幼児教育の充実		担当課係 学校教育課学校教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●「アプローチカリキュラム」の実施(年長児)	
・就学前の幼児が円滑に小学校や前期課程の生活が送れるように、市内の幼稚園、認定子ども園、保育所の年長児と交流学習を実施する	
主な取組内容	R1 交流学習の実施
	R2 交流学習の実施
	R3
	R4
	R5
●「スタートカリキュラム」の実施(小学校入学時)	
・小学校や前期課程での生活がスムーズに適応していけるように、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を実施する。	
主な取組内容	R1 指導計画の実施
	R2 指導計画の実施
	R3
	R4
	R5
●幼・保・小・中連携体制の構築	
・子どもや保護者の不安解消や、負担軽減が出来るよう、幼・保・小・中連携体制の構築体制を構築するため、接続時の課題を把握する。	
主な取組内容	R1 異校種間の連携の推進
	R2 異校種間の連携の推進
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 各小学校と義務教育学校が市内の幼稚園、認定こども園、保育所の年長児と交流学習を3回以上した割合									
交流した割合	22.0%	22.0%	—			50.0%	100.0%	—	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
—	小学校や前期課程への接続を意識し、交流事業を実施する予定ではあったが、コロナ禍で実施ができなかった。
取組を進める上での課題と対応方針	
令和3年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しつつ、効果的な交流学習の実施継続を目指していく。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
—・・・評価不可

予算書上の 細目名等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第4節	地域とともにある学校づくりの推進
施策5	教職員の資質・能力の向上		担当課係 学校教育課学校教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●伊達市教育実践交流・研修会の実施	
・市内の教職員が一堂に会してお互いの実践を交流・協議することを通じて、教職員間のコミュニケーションの促進と教育課題の共有化や資質向上のために研修を実施する。	
主な取組内容	R1 教育実践交流・研修会の実施
	R2 教育実践交流・研修会の実施(コロナ禍による書面開催)
	R3
	R4
	R5
●資質能力向上のための研修会の実施	
・専門性を生かした役割を向上させるため、学校と学校、あるいは学校と教育委員会・関係諸機関との間で教育行政の立場で連携を図る研修を実施する。	
主な取組内容	R1 伊達市教育研究会事務部会交流意見交換会、伊達市教育研究会学校保健会との協議会
	R2 伊達市教育研究会事務部会交流意見交換会、伊達市教育研究会学校保健会との協議会
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 市内教職員の伊達市教育実践交流・研修会への参加率									
参加率	64.0%	79.4%	—			70.0%	90.0%	—	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施
◎ 市内教職員(養護教諭、栄養教諭、事務職員)の研修会への参加率									
参加率	65.4%	96.6%	—			80.0%	90.0%	—	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている —:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
—	コロナ禍により、伊達市教育実践交流・研修会が書面開催となったこと、学校保健会研修会が中止となったことなど影響が大きく、計画に沿った研修・交流実践ができなかった。
取組を進める上での課題と対応方針	
令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況は厳しい状況にあるが、流行状況を注視しつつ、適切な研修・交流活動の実践に努めていく必要がある。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
—・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第5節	信頼される教育環境の整備
施策1	学校施設・設備の充実		担当課係 学校教育課企画総務係

1 推進方策および今年度の取組内容

●伊達市学校施設長寿命化計画の策定	
・計画的な改修と改修コストの縮減および平準化を図ることを目的として、伊達市学校施設長寿命化計画を策定した。今後においては、学校の統廃合等、施設の将来的な動向も踏まえた計画への見直しを検討する。	
主な 取組 内容	R1 伊達市学校施設長寿命化計画の策定、公表
	R2 学校の統廃合等、状況に応じた計画見直しの検討
	R3
	R4
	R5
●伊達市学校施設長寿命化計画に基づく計画的な学校施設の修繕	
・伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、増築、改築工事及び施設改修にかかる実施設計等を行う。	
主な 取組 内容	R1 伊達小体育館改築、伊達小校舎増築、東小校舎増築、東小長寿命化改修
	R2 東小長寿命化改修、光陵中改修(暖房設備、トイレ、照明設備)、伊達中暖房設備改修実施設計
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎伊達市学校施設長寿命化計画に登載した事業の実施									
事業実施率	—	17.4%	34.8%			50.0%	100.0%	b	
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	国の補正予算を積極的に活用することにより、継続事業も含め4件の事業を実施することができた。
取組を進める上での課題と対応方針	
学校の統廃合等、施設の将来的な動向も踏まえ、計画を見直しながら実施していくこととする。また、事業実施にあたっては、交付金の動向を注視するとともに、財源的に有利な国の補正予算の活用についても随時検討を行う。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予算書上の			事業(細目)名	決算額(千円)	概要	光陵中学校照明 設備改修事業 26,719千円		
	款	項	目						
	9	2	1					東小学校校舎長寿命化改修事業	303,946
	9	3	1					光陵中学校暖房設備改修工事	88,825
9	3	1	光陵中学校トイレ改修事業	30,426					

第1章	学校教育	第5節	信頼される教育環境の整備
施策2	校外安全対策の充実		担当課係 学校教育課学校教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●交通安全教室、防犯教室の実施	
・警察など関係機関と連携した訓練や指導を行い、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上を図るため実施する。	
主な 取組 内容	R1 交通安全教室、防犯教室の実施
	R2 交通安全教室、防犯教室の実施
	R3
	R4
	R5
●通学路安全対策の充実	
・登下校交通安全・防犯プログラムに基づき、関係機関と連携し合同点検を実施	
主な 取組 内容	R1 登下校安全対策推進会議の設置、登下校交通安全・プログラムの策定
	R2 登下校安全対策推進会議の実施、対策案の検討及び協議
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 警察など地域の関係機関・団体等と連携し、児童生徒に対する交通安全と防犯教室を実施している割合									
小学校及び 前期課程	60.0%	60.0%	89.0%			77.7%	100.0%	b	
中学校及び 後期課程	25.0%	25.0%	75.0%			75.0%	100.0%	b	

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	交通安全教室と防犯教室を実施している学校数は堅調に増加している。 登下校安全対策推進会議を開催し、校区の危険箇所に係る協議等を継続している。
取組を進める上での課題と対応方針	
小学校・中学校ともに隔年実施としている学校が多いことから、毎年実施を促していく。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要

第1章	学校教育	第5節	信頼される教育環境の整備
施策3	学校再編等の推進		担当課係 学校教育課学校教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●伊達市立学校の適正規模の推進	
・児童生徒が、望ましい学校規模の中で学び、資質や能力をさらに伸ばしていけるよう、子どもたちの教育環境をより良いものにするために、伊達市立学校適正規模配置(案)に基づき、学校再編を進める。	
主な 取組 内容	R1 「伊達市立学校の適正規模の推進」に基づき、説明会を実施
	R2 「伊達市立学校の適正規模の推進」に基づき、説明会を実施及び統合準備協議会の設置
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 計画最終年度における適正規模を下回る学校数(関内小学校、星の丘小・中学校、大滝徳舜管学校を除く)									
適正規模を下回る学校数	—	3校	3校			—	0校	b	

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	「稀府小学校」については、東小学校との統合準備協議会を設立、3回に渡り協議会を開催した。 「有珠小学校」については、R4年度末をもって閉校することを決定。R3年度以降は、伊達西小学校との統合準備協議会を設立し協議を行っていく。 「長和小学校」については、保護者説明会を実施し学校適正規模について説明を行った。
取組を進める上での課題と対応方針	
稀府小学校・有珠小学校については、統合準備協議会の継続、児童の交流事業等を通じ、児童や保護者の不安解消及び円滑な統合実現に努める。また、長和小学校については、説明会等を通じ保護者・地域の理解の醸成を図り、統合年度の確定、統合準備協議会設立に向けた取組を継続するものとする。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
				9	1	

第1章	学校教育	第5節	信頼される教育環境の整備
施策4	高等学校教育等との連携・支援		担当課係 学校教育課企画総務係

1 推進方策および今年度の取組内容

●市内高等学校・高等養護学校との連携・支援	
・「公立高等学校配置計画(令和2年度～4年度)」において、伊達高等学校及び伊達緑丘高等学校の募集停止並びに新設校の設置が示されたことから、令和3年度の再編新設校の開校を見据え、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校を構築するため、連携・支援を行っていくとともに、ふるさと創生教育「だて学」を推進する。	
主な 取組 内容	R1 高等学校における地域学習への支援
	R2 道立高等学校新設支援補助金、高等学校における地域学習への支援
	R3
	R4
	R5
●	
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎									
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
取組を進める上での課題と対応方針	
令和3年度の再編新設校の開校を見据え、タブレットの整備およびオンライン学習に必要な環境を整えるための支援を行なうことにより、オンライン教材による放課後の自学自習等、生徒の確かな学力向上を図ることができた。引き続き子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校の構築に対する支援、連携を行なっていく。	

■達成度評価指標 A・・達成、完了 B・・達成に向け進捗あり C・・着手したが遅延している D・・未着手
-・・評価不可

細目名等	予算書上の			事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	款	項	目			
	9	1	2			
9	1	3	ふるさと創生教育「だて学」推進事業	223		